

グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2052

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp



四国山の日

No.1117 2013年4月号

「春の緑の街頭募金」

スローガン「緑が育つ人が育つ」

【詳細2頁】



緑の街頭募金活動



「募金」ありがとうございます



四月一四日、(社)高知

県森と緑の会主催による

「春の緑の街頭募金」が、「緑が育つ人が育つ」をスローガンに、高知市の中央公園及び帯屋町筋で行われま

出発式で新木局長から

「緑の募金活動は、お一人おひとりのお志を集め、森林を育み地球環境に貢献するばかりでなく、森林・



くろしお君も「緑の街頭募金」活動に一役

大きな声で道行く人々に呼びかけました。

林業の重要性に対する理解や関心を深めるキャンペーンでもあります。本日も皆さんと共に頑張つて参りたい。」との挨拶のあと、帯屋町筋において、参加者として新木局長らが「緑の募金にご協力をお願いします」と、



入庁式後、前列左側から新木局長、新採の田中さん、東別府さん、斎藤総務企画部長



当日は、初夏のような天候の中、募金の呼びかけに応えていただき、子供からお年寄りの方々まで多くの善意が寄せられました。春の緑の募金活動は、五

月三十一日まで行われており、皆さんから寄せられた募金は、森林の整備や緑化の推進、緑を通じた国際協力などに活用されています。

その後、局長から、『皆さんは、国有林野事業が新しい時代を迎えた素晴らしい日に社会人としての一歩を踏み出されました。国有林は、これまで特別会計で運営されてきましたが、新年度に入った今日から一般会計に事業が移行しまし

四月一日、平成二五年度新規採用者二名の入庁式が行われました。

新木局長より辞令が手渡され、入庁者を代表して、田中さん(保)が宣誓を行いました。今日は皆さんの第一目に当たるばかりでなく、私たち国有林野職員にとつての新しい時代の第一日です。今後は、国有林について一層の公益的機能を重視した運営を行うとともに、民有林の振興への貢献を強化することとしております。今後は、地域と共に歩む「国民のための国有林」



新任紹介

として心を新たに取り組んでいく必要があります。そのためには職員全体が意識を改革していかねなければなりません。皆さんは、このような新しい時代の国有林にふさわしい職員になって頂きたい。また、四国森林管理局は、高知大林区署、高知営林局と言われた頃からの長い歴史があり、これに対するリスクも重要です。健康維持に留意され、一緒に頑張っていきましょう。』

業務管理官 井上 康

○昭和五六年四月

林野庁採用

○平成二三年八月

北海道森林管理局

帯広事務所長

○平成二五年四月

現職

総務企画部長 斎藤 均

○昭和五八年四月

林野庁採用

○平成二二年四月

四国森林管理局計画部長

○平成二五年四月

現職

計画保全部長 吉永 俊郎

○昭和六二年四月

林野庁採用

○平成二二年四月

林野庁国有林野部

職員・厚生課管理官

○平成二五年四月

現職

森林整備部長 鶴園 重幸

○昭和五八年四月

林野庁採用

○平成二一年四月

林野庁国有林野部

業務課企画官

○平成二五年四月

現職

徳島森林管理署長

堀 幸夫

○昭和五二年四月

札幌営林局採用

○平成二三年四月

九州森林管理局

宮崎北部森林管理署長

○平成二五年四月

現職

野生鳥獣との共存に向けた 連絡会議開催

〈技術普及課〉

近年急激に生息数が増加し、樹木や下層植生に被害を及ぼしているニホンジカ（以下「シカ」）の徳島・高知両県境の剣山・三嶺地域における関係機関の連絡会議を、三月六日に四国森林管理局で開催しました。

環境事務所、両県、香美市から、平成二四年度の対策の概要と平成二五年度の対策を報告しました。

高知大学の石川教授から、シカ被害状況の広域的な把握のため実施した、ササ群落及び冷温帯針葉樹の被害調査の結果及び評価

会議には、高知大学などの研究者、自然保護団体、猟友会の代表者、徳島・高知両県、関係市町村、中国四国地方環境事務所の担当者等二四名及び局計画部、関係森林管理署長等職員が出席し、森林管理局、地方

連絡会議の様子



きた箇所がある一方、新たに植生被害が発生した箇所や多くの箇所です。土砂の流出や土壌の崩落が見られ、更に被害拡大が危惧される現状を個別箇所毎に説明されました。三嶺の森をまもるみんなの会の依光代表から、被害の変遷と対策の現

段階について報告があり、二〇一〇年頃から、植生被害はピークを過ぎ、日当たりの良い稜線部等では緑の再生も見られましたが、土砂流出被害はむしろ増大傾向にある。被害対策は、植生保護、裸地化・荒廃対策に加えて捕獲効率を上げるための対策を検討する時期となっており、シカの逃げ道を絞るネット柵の設置等について提案がありました。

意見交換においては、シカ食害地に有効な緑化方法、ヘリ空撮による生息状況や被害状況の把握、石鎚山系のシカ生息状況等について検討

するなど、剣山・三嶺地域の取組の強化のみならず、四国全体でのシカ対策



の推進について、改めて関係者が認識を共有しました。

地域材の利用を推進することは、森林の適正な整備・保全等につながるから、利用促進を図ることが重要です。林野庁は、地域材を活用した木造住宅の新築、内装・外装の木質化、木材製品等の購入の際に、木材ポイントを付与し、地域の農林水産物等との交換を行う木材利用事業を始めました。

このため、木材利用ポイントと交換できる地域の農林水産品や農山漁村地域における体験型提供旅行、地域商品券の商品を提供する事業者の公募を実施するにあたって、林野庁木材利用ポイント推進室による説明会が四月一二日に、当局の大会議室で開催されました。

このため、木材利用ポイント

から交換商品提供事業者等約一二〇名の参加があり、木

材利用ポイント事業の概要説明、交換商品提供事業者の役割、交換商品の登録について、林野庁担当者及び木材利用ポイント事務局から説明が行われました。木材利用ポイント、交換商品の募集は四月一六日より開始されています。



盛況に開催された木材利用ポイント制度の説明会

各地のたより



赤帽子民国連携

プロジェクト協定を締結

〈徳島森林管理署〉

三月二二日、徳島森林管理署において「つるぎ町赤帽子地区民国連携プロジェクトに関する協定」の締結式が行われました。

協定は、つるぎ町一宇の赤帽子山（一，六一一m）北面に広がる民有林とその上部に位置する国有林をフィールドに、民国連携を図るためのモデルケースとして、二年にわたって検討してきたものです。

徳島県が進める「次世代林業プロジェクト」では、施業を集約化する「高能率団地」を県下に六〇配置することとしており、赤帽子山北面には八七八haの高能率団地が設定されています。

当署が所管する実平、広沢国有林（二九四ha）は、民有林の上部に带状に分布しており、中腹を横断する民有林林道から遠いため、利用間伐は実施できませんでしたが、林道から国有林境界近くまで民有林で開設された作業路網が利用できれば、利用間伐を実施できることとなります。

このため、徳島県西部総合県民局、地元のつるぎ町、間伐を実施している美馬森林組合を交えて、現地検討会や協議会を積み重ね、合理的な路網や効率的な間伐などの森林整備を民国が連携して実施できるよう、森林共同施業団地を設定することになったものです。

協定式のため、西部総合県民局農林水産部長、つるぎ町農林課長、美馬森林組合代表理事組合長が、来署し、趣旨説明のあと、協定書を取り交わし、四者でがっちり握手をして協定を確認し合いました。

このため、徳島県西部総合県民局、地元のつるぎ町、間伐を実施している美馬森林組合を交えて、現地検討会や協議会を積み重ね、合理的な路網や効率的な間伐などの森林整備を民国が連携して実施できるよう、森林共同施業団地を設定することになったものです。

今回の協定では、包括的な協力・信頼関係を結び、当面、利用間伐など、今後五ヶ年間で実施可能な事業計画を立てていますが、協定を推進・深化していく中で、国有林として民有林に貢献できる手立てを具体的に提示していく必要があると考えています。



赤帽子民国連携プロジェクト協定締結後

左側から、西部総合県民局農林水産部長、つるぎ町農林水産課長、美馬森林組合代表理事組合長、前三谷徳島森林管理署長



地元説明会の様子

地元説明会の開催

〈徳島森林管理署〉



三月二六日の夜、三好市東祖谷新居屋公民館で、新居屋地区の防災対策に関する地元説明会を開催しました。

新居屋地区は、当署が昭和三五年から治山事業を、

昭和三九年からは直轄地すべり防止事業を実施してきました。

このような中で、土石流

対策として国土交通省の砂防ダム計画が持ち上がり、交渉の結果、砂防ダム計画は撤回されることになりましたが、地元の不安感を払拭し、今後の事業実施に理解と協力をいただくために、地元説明会を開催した

ものです。

説明会には、

当署のほか、局治山課の担当官、三好市東祖谷総合支所、地元から区長ほか住民約二〇名が参加しました。

初めに、当署

の安全・安心を確保するために、土石流対策を加

味した防災対策を実施するための全体計画等を策定することとしていますが、新居屋地区や三好市と密接な連携のもと、スピード感を持って防災対策を実施したいと考えています。

説明後の質疑では、地元住民から老朽化した既存施設の手当てや詳細な調査を望む要望が出され、特に上水道のない当地区での飲料水の確保は切実な問題として提起されましたが、当署の取り組み方向については、極めて好意的に受け入れていただいたと受け止めています。

三月九日、綾歌郡綾川町の檜原国有林にある「社会貢献の森・菅組 感謝の森」において、社員一二名による第一回目の森林整備活動が行われました。

「社会貢献の森」で間伐



〈香川森林管理事務所〉

あり、ヒノキ人工林の整備を通じて、社員の環境保全意識の向上を図るとともに、木の建築をつくり続けることに同時に木を育てることに関わることで「木とともに」生長する企業としての自覚を深めることを目的として、平成二四年七月に、檜原国有林四二林班と8小班二・三九ヘクタールを対象として、社会貢献の森の協定を締結したものです。

今回が協定締結後、第一回目の森林整備活動ということで、当所からも、間伐の方法や選木の仕方、安全に関する指導のため参加しました。

当該箇所はヒノキ二七年生の林分で、作業の際の間

歴

史

を

間伐作業の様子



伐木選定が容易なように、事前に標準地を設定し、その区域内での間伐木を対象に作業をしてもらいました。

作業区域や内容の説明後に、菅組の森林整備活動の指導者である地元林業家の豊田均さんから、チェーンソー・手鋸による伐倒方法

「思った方向に倒れない」といった声が聞かれましたが、作業が進むにつれ、徐々に伐倒方向も定まってくるようになりました。

また、かかり木処理についても、ロープを使って適切に処理するなどし、約二時間の予定の作業を終了しました。

作業終了後、菅社長から、今後会社の社会貢献活動の一環として森林の保全・整備に取り組ん

で行きたいとの言葉があり、当所としても引き続き活動に対して協力していくこととしています。

手鋸で作業された方からは、「思うように倒れない」、

足摺亜熱帯自然植物園の

案内板をリニューアル

〈四万十森林管理署〉



当署の管理する国有林が多くを占める足摺岬周辺は、ヤブツバキの群落が花を咲かせ、毎年、三月頃、花の見頃となり、道中にある梅や菜の花も彩りを添え一足早く春がやって来ます。

このたび、当署では、足摺岬にある足摺亜熱帯自然植物園の案内看板と説明板の立替を行いました。



リニューアルされた足摺亜熱帯自然植物園の看板

これまでの看板は、潮風とシロアリにより老朽化が進み、転倒の危険も見受けられ始めたことから、二四年度足摺亜熱帯自然植物園整備事業の一環として実施したもので、春の観光シーズンまでに交換を完了することができました。

当植物園は、足摺大堂

自然休養林の施設として昭和四八年に開設し、足摺半島に自生している貴重な植物を自然のままの形で約五〇〇種が植栽され、南国色豊かな自然の憩いの場と

なっており、早春から秋にかけては美しい花も見られます。

また、昭和天皇の行幸を賜った歴史も有しています。なお、一般にはあまり存在を知られていませんが、県外からの熱心な植物愛好家や学生の研究の場としての入園や問い合わせも

あるところですよ。

植物園のある足摺半島一帯は、四国最南端の足摺岬を中心に、雄大な太平洋を望む自然が広がり、貴重なシイを主体とする照葉樹林の原生林です。秋にはヤッコソウが顔を出す佐田山保護林や、巨石文明の名残ともいわれる唐人駄馬遺跡、四国八十八カ所霊場の金剛福寺、波瀾万丈の人生をたどった土佐が生んだ幕末の偉人、ジョン万次郎にまつわる史跡や、温泉も多くあり、通年を通して多くの観光客が訪れています。

足摺観光においでの際には是非共お立ち寄り下さい。



祖谷川治山事業所名称変更

〈徳島森林管理署〉

徳島県三好市東祖谷地区では、昭和二七年より民有林内



三好市東祖谷総合支所橋本氏(左側)と堀徳島森林管理署長(右側)による看板の掛け替え。

において、地域災害復旧対策として直轄治山事業を祖谷川

第一治山事業所、第二治山事業の両事業所により整備を行ってきましたが、直轄治山事業での整備終了に伴い、平成二四年度末をもって治山施設を徳島県に引き渡すことになりました。

四月一日からは、名称を新たに祖谷川治山事業所とし、当該事業区域内の地すべり防止事業を、今後も計画に基づき行っていく事業所としてスタートすることとなりました。

した。

今後整備していく地すべり区域内には、国道など主要道路も横断し、また集落等も多数あり、地元から対策工事の声が高いところでもありません。

四月九日には、三好市東祖谷総合支所長橋本氏と堀徳島森林管理署長により、新しい看板の掛け替え式が行われ、六〇年間、地元の整備を行って頂いた感謝とともに、今後も地元の災害、防災対策をしっかりと行って頂きたいとの要請を受けました。

徳島森林管理署では、地元関係団体との連携を深め、整備を進めて行きたいと考えています。